

2023年10月1日(日)

日本キリスト教団 **久宝教会**  
第66巻第26号(通算3358号)  
教会設立 1959年6月14日

〒581-0072

大阪府八尾市久宝寺6丁目7-10

TEL 072-992-2131 FAX 072-992-2135

郵便振替: 00980-5-212130 「日本基督教団久宝教会」

【集会案内】こどもの礼拝: 毎日曜 10:00-10:20 何かお悩みがありましたらご遠慮なくご相談ください  
主日礼拝: 毎日曜 10:30-11:30 小さい子どもたちも、いつでも歓迎いたします。

しゅうほう  
**週報**

教会標語

かみさまがすべてのひとと共におられる  
ことを証ししていく教会



ホームページ「久宝教会」  
(ウェブサイト)

<http://www.koinonia.or.jp/kyuhokyokai>

【連絡先(牛田)】090-9161-4027

[kyuho-church@koinonia.or.jp](mailto:kyuho-church@koinonia.or.jp)

この「確かさ」は当て外れということがありません。私たちが頂いている聖霊の働きによって、人を大切に神の思いが、すでに私たちの心に注がれているからです。(ローマ5:5)

せいかいせいさんび せいれいこうりんせつ だい しゅじつ れいはい  
**世界聖餐日(聖霊降臨節 第19主日) 礼拝**

《礼拝はインターネットで中継配信いたします。ホームページにてどなたでもご視聴いただけますので、それぞれの場所で共に礼拝をして頂けます》

ぜん そう もくとう ちよさくけんしょうめつ  
前 奏 黙 禱 AVE VERUM CORPUS (©著作権消滅)

まね ことば しへん へん せつ  
招きの詞 詩編 73編 21-24節

さんび か ばん さんびかへんしゅういいんかい  
賛美歌 21-209番「めさめよ、こころよ」(©讚美歌編集委員会)

せいしよ ふくいんしよ しょう せつ  
聖 書 ルカによる福音書 16章 19-31節

いの ばん こころ そこ きやうだんさんびかいいんかい  
お 祈り 賛美歌 21-8番「心の底より」(©教団讚美歌委員会)

メッセージ「渡れなくなる前に」 水谷 憲 牧師

さんびか ばん しゅ おも きやうだんさんびかかいていいんかい  
賛美歌 21-477番「主イエスを想えば」(©教団讚美歌改訂委員会)

ユーカリスト みづたに けん ぼくし  
聖 餐 水谷 憲 牧師

きやうどう いの へいわ ちよさくけんしょうめつ  
共同のお祈りと、平和のあいさつ 賛美歌 21-524番「われらみ名により」(©著作権消滅)

しゅ いの ちよさくけんしょうめつ  
主の祈り 献げ物(\*) 派 遣 21-91番「神の恵みゆたかに受け」(1節のみ)(©JASRAC)

しゅくふく みづたに けん ぼくし  
祝 福 水谷 憲 牧師

こうそう ばん きやうだんさんびかいいんかい  
後 奏 アーメン コーラス (21-40-6番)(©教団讚美歌委員会)

ほうこく ページ さんしょう  
報 告 (4頁をご参照ください)

《席にお座りになったままで礼拝にご参加ください》

\*「献げ物(献金)」は参加費ではございません。

うけつけ けんきんばこ ようい かた ささ  
受付に献金箱がございます。ご用意のある方のみ、お献げください。

21 私の心は痛み

はらわたの裂ける思いがする。

22 私は愚かで物を知らず

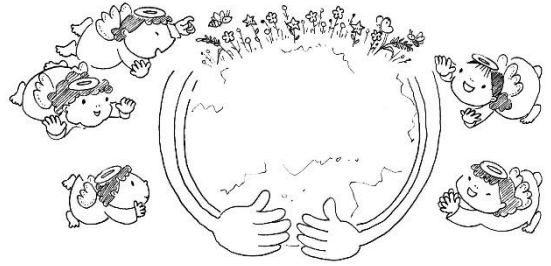
あなたと共にありながら 獣けもののようだった。

23 しかし、私は常にあなたと共にある。

あなたは右の手を捕らえてくださる。

24 あなたの計らいは私を導き

やがて栄光のうちに私を引き上げてくださる。(脚注:「のうちに」は補足)



聖書 ルカによる福音書 16章 19-31節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

19 「ある金持ちがいた。紫むらさきの布や上質の亜麻布あまぬのを着て、毎日、派手な生活を楽しんでいた。20 この金持ちの門前に、ラザロと言う出来物だらけの貧しい人が横たわり、21 その食卓から落ちる物で腹を満たしたいと思っていた。犬もやって来ては、彼の出来物をなめていた。22 やがて、この貧しい人は死んで、天使たちによってアブラハムの懐ふところに連れて行かれた。金持ちも死んで葬ほうむられた。23 そして、金持ちは陰府よみでさいなまれながら目を上げると、アブラハムとその懐ふところにいるラザロとが、はるかかなたに見えた。24 そこで、大声で言った。『父アブラハムよ、私を憐れんでください。ラザロをよこして、指先を水みづに浸ひたし、私の舌を冷やさせてください。この炎の中で苦しくてたまりません。』25 しかし、アブラハムは言った。『子よ、思い出すがよい。お前は生きている間に良いものを受け、ラザロのほうは悪いものを受けた。今は、ここで彼は慰められ、お前はもだえ苦しむのだ。26 そればかりか、私たちとお前たちの間には大きな淵ふちが設けられ、ここからお前たちの方へ渡ろうとしてもできないし、そこから私たちの方に越えて来ることもしかない。』27 金持ちは言った。『父よ、ではお願いです。私の父親の家にラザロを遣わしてください。28 私には兄弟が五人いますので、こんな苦しい場所に来ることのないように、彼らによく言い聞かせてください。』29 しかし、アブラハムは言った。『お前の兄弟たちにはモーセと預言者がいる。彼らに耳を傾けるがよい。』30 金持ちは言った。『いいえ、父アブラハムよ、もし、死者の中から誰かが兄弟のところに行ってやれば、悔い改めるでしょう。』31 アブラハムは言った。『もし、モーセと預言者に耳を傾けないならば、たとえ誰かが死者の中から復活しても、その言うことを聞き入れはしないだろう。』』

## 《先週のメッセージより》9月24日聖霊降臨節第18主日礼拝

「友だちをつくる」より

牛田匡牧師

聖書 ルカによる福音書 16章 1-13節

「不正な管理人のたとえ」と呼ばれているこのお話を読む時、私たちは本当の「不正」とは一体何か、ということを改めて考える必要があります。大多数の人々が貧しい農民や漁民であった当時、ごく一部の大金持ちの「主人」がそれらの人々を支配し、その両者の間には主人から現場の監督や管理を任された「管理人」たちがいました。いわゆる中間管理職であった彼らは、上からは圧力を受け、下からは憎まれるというしんどい状況に置かれていたわけです。そのような中でこの管理人は普段から、搾取され貧しくされていた小作人たちに、主人の金を無断でばら撒いていたようです。それが「不正を働いている」として告げ口されました。ですが、考えてみれば、膨大な富、それ自体が多くの人々を搾取すること無しには存在し得ない不正にまみれたものです。むしろ、彼がしたことは弱く小さくされている人々を助ける正しいことなのではないでしょうか。

管理人自身もその役職を解かれ、放り出されたら一人では生きていくことの出来ない弱くされた存在でした。その時に、主人の側か、小作人たちの側か、どちらに目を向け、どちらの友になろうとしたか。そこにこそ彼の賢さ、見極める感性があったのではないかと思います。「金の切れ目が縁の切れ目」という言葉がありますが、金も権力も地位も失った時に、それらに関係なく「ただの友だち」として、関わり続け、支えて助けてくれる存在を、私たちはどれだけ持っているのでしょうか。持っている人は持っているものを失うまいと、ますます握りしめて、周りに心と目が向かない傾向がありますが、持っていない人はむしろ自由な感性で、周りの持っていない人に対して、友だちとしての軽やかな心遣いができるような気もしています。「友だちをつくる」。共に生きる仲間、支え助けてくれる仲間と出会うこと。富やお金はそれ自体に価値があるわけではなく、友だちをつくるための道具に過ぎません。またお金に限らず、今自分が持っている能力も立場も、全ては神様からの預かり物です。それらを誰のため、何のために用いて役立てていくか。友だちを作るため、またその友のために用いて行けるか。私たちは、自分自身のことだけではなく、自分の隣りや周りの方々と共に歩むように、今週も導かれて行きます。

毎週の「メッセージより」は、ウェブサイト等にも順次掲載されています。

ホームページ



Facebook



YouTube



◎ 先週の報告 (9月17日)

礼拝出席 大人5名 子ども3名 献金 大人4,000円 子ども300円  
中継視聴者数7回 感謝

礼拝後に、西成区・釜ヶ崎支援のための「おにぎり支援」を行い、68合のご飯で176個のおにぎりを作り、いこい食堂にお届けして、西成警察署隣の四角公園にて、150人ほどの方々にお渡しさせて頂きました。どうもありがとうございました。

◎次週 2023年10月8日(日) 聖霊降臨節第20主日礼拝

招きの詞 レビ記 25章 42, 46b節

聖書 ルカによる福音書 17章 1-17節

メッセージ「置かれた所で咲きなさい？」牛田匡牧師

賛美歌 21-560 (©P.D.)、21-431 (©P.D.)、21-162 (©塩田泉)

礼拝後に、10月期の「教会を考える会」を行う予定です。



◎お知らせ

- ・これまでの「週報」や「メッセージ(全文)」はホームページに掲載しています。また中継録画のメッセージ部分をYouTubeでご覧いただくことも可能です。感染症予防のためなど、それぞれの方が参加しやすい形で礼拝にご参加ください。
- ・10月7日(土)14時~16時にかけて、大阪教区「教会と天皇制」を考える特別委員会主催の集会「天皇制から解放された世界〈神の国〉をめざして」が開催されます。会場は大阪クリスチャンセンター(JR環状線・玉造駅下車徒歩約10分)ですが、ZOOMによるオンライン参加も可能です。発題者は山下壮起さん(阿倍野教会牧師・「教会と天皇制」を考える特別委員会委員長)で、発題の後に参加者の方々によるディスカッションがあります。

天皇制は信教の自由を脅かすものであるだけでなく、天皇と対極に位置する人々を社会から見えなくするものとして作用します。そのような状況に置かれた人々に連なり、共に生きようとするとき、教会は天皇制から解放された〈神の国〉を実現する働きを担えるのではないのでしょうか。ZOOM参加希望の方は下記メールアドレスまで、お名前・所属先・メールアドレスを記入しお申込み下さい。

abeno1921@sirius.ocn.ne.jp

◎ 次週以降の行事予定

	メッセージ	行事
10/8	牛田牧師	教会を考える会
10/15	牛田牧師	
10/22	牛田牧師	収穫感謝礼拝・おにぎり支援
10/29	牛田牧師	誕生者祝福式

## 発題とディスカッション

### 天皇制から解放された世界〈神の国〉をめざして

2023年10月7日(土)  
14:00-16:00

会場：大阪クリスチャンセンター 2階ホール  
およびZoom配信

発題：山下壮起さん 阿倍野教会牧師・「教会と天皇制」を考える特別委員会委員長  
2023年の2.11集会では、「教会と天皇制」について考えるために、6名の方々によりさまざまな視点からの発題をいただきました。「教会と天皇制」を考える特別委員会では、その発題への応答として、〈神の国〉を宣べ伝える教会の業を再考する機会としての集会を企画しました。  
天皇制は信教の自由を脅かすものであるだけでなく、天皇と対極に位置する人びとを社会から見えなくするものとして作用します。そのような状況に置かれた人びとに連なり、共に生きようとするとき、教会は天皇制から解放された〈神の国〉を実現する働きを担えるのではないのでしょうか。そんなことを皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

発題の後、ディスカッションの時間を持ちます。

Zoom参加の方は、お名前・教会名(所属名)メールアドレスをご記入のうえ、e-mailにて山下壮起(阿倍野教会)までお申し込みください。集会前日までに招待メールをお送りします。  
【申込先】 abeno1921@sirius.ocn.ne.jp

主催：日本基督教団大阪教区「教会と天皇制」を考える特別委員会